

成田市教育委員会会議議事録

令和元年8月成田市教育委員会会議定例会

期 日 令和元年8月20日 開会：午前10時 閉会：午前10時50分

会 場 成田市役所5階503会議室

教育長及び出席委員

教 育 長	関 川 義 雄
委 員 (教育長職務代理者)	小 川 新太郎
委 員	高 木 久美子
委 員	佐 藤 勲
委 員	片 岡 佳 苗

出席職員

教育部長	神 山 金 男
教育部担当次長	石 毛 直 樹
教育総務課長	松 島 真 弓
学校施設課長	篠 塚 正 人
学務課長	竹 尾 裕 之
教育指導課長	藤 田 総
生涯学習課長	神 崎 良 浩
学校給食センター所長	椿 弘 志
公民館長	谷 平 裕 美
図書館長	田 中 美 季
教育総務課長補佐 (書記)	篠 塚 康 孝

傍聴人：0人

1. 教育長開会宣言

2. 署名委員の指名 小川新太郎委員、高木久美子委員

3. 前回議事録の承認

4. 教育長報告

主催事業等

○7月31日 成田市生涯学習推進本部・幹事会合同会議について

関根副市長を本部長とする生涯学習推進本部、生涯学習関係各課長の集まりである幹事会、この両者の合同会議を開催しました。今回の議事は、第2次生涯学習推進計画の進捗状況、第2次生涯スポーツマスタープランの進捗状況、そして、第3次生涯学習推進計画並びに第3次生涯スポーツマスタープランについての3点でした。これらについては、本委員会会議でもご報告させていただいておりますが、生涯学習の現状を数値化して表すことの難しさ、また、同様に目標設定の困難さは、日頃から感じているところです。会議では、現在行っている様々な事業にどれだけの市民が参加しているか、その数が目標値と比較してどうかといった報告を行っていますが、事業における課題を解決するための方策については、なかなか良いアイデアが出てきていないと感じている次第です。しかしながら、多くの事業を通じて、市民の仲間づくりや生きがいがいづくりに多大な貢献をしていることは間違いのない事実ですので、こうした事業を継続することは、健康寿命を延ばしていくことにつながっていくのかなと思っています。

○8月2日 「教育事務に係る点検及び評価」における評価委員会議について

今年も教育委員会の事務事業の評価をしていただく時期に差し掛かってきました。今年は、新たに評価委員として選任させていただいた眞鍋委員を含め、委員5名中4名の方に委嘱状を交付させていただきました。任期は2年間となります。私は委嘱状を交付させていただいた後、退席しましたが、この日は、教育委員会として実施している全事業の中から、特に評価すべき事業を委員の皆様を選んでいただき、次回の会議で、それぞれ、選定された事業を実施している担当課からヒアリングをしていただく計画であります。教育委員の皆様にも、具体的な評価が出てまいりましたら、改めて詳細をご報告させていただきたいと思っております。

○8月5日 令和元年度 第1回 成田市学区審議会について

今回も審議委員の皆様特に諮問する内容はございませんでしたが、今年度の指定学校変更並びに区域外就学の状況について委員の皆様にご報告させていただくとともに、住民基本台帳を基にした今後の児童生徒数の推移について、ご案内させていただきました。この中で、審議委員の皆様も気にされたのは、豊住小学校の児童数が年々減少しており、今後も減少傾向が続くことです。旧豊住中を成田中と統合する際、地域の皆様から「中学校の統合は仕方ないとしても、小学校は残してほしい」という強い要望がありました。その思いを受けまして、これまでも小学校の統合は、まったく想定せず、学校の支援を続けてきたところですが、ここに来て、小学校保護者から匿名で学校の統合を進めてほしい旨の要望や、小規模校の限界を感じるといった内容の声が届くようになってきました。「せめて、保護者の思いを聞くアンケートを実施してはもらえないだろうか」という切実な訴えもありました。今後、豊住小学校については、どういった方向で対応していくか、学区審議会にも諮問することも含め、教育委員会としても、何らかの対策を考えていかななくてはならないと考えています。

○8月19日 令和元年度 第1回 成田市生涯学習推進協議会について

本年度第1回目の協議会でしたが、内容については、7月31日に行われた生涯学習推進本部幹事会合同会議で協議したものと同様ですので、特にご報告することはございません。ただ、生涯学習やスポーツ振興に関わる団体の代表者がお集まりの席でしたのに、あまり質問やご意見が出されず、ちょっと拍子抜けした感があります。内容が多く、何をどう発言すべきか、迷っておられたような雰囲気もありました。生涯学習もスポーツ振興も、事業報告の中で、何が課題として生じているのか、また、その解決に向けてどんな方策を考えているかなど、もう少し具体的に提案した方が協議しやすいのかなと思いました。

その他

○7月30日 遠山小学校 学校林「駒の森」文部科学大臣賞受賞記念祝賀会について

遠山小学校の学校林「駒の森」が、環境省及び公益財団法人日本鳥類保護連盟主催の愛鳥週間全国野鳥保護のつどいにおいて、野生生物保護のための功績が認められ、文部科学大臣賞を受賞されました。これをお祝いし、遠山小学校と遠山小学校の「駒の森を育む会」が主催し、記念祝賀会が開催されましたが、私もこれに招かれて出席してまいりました。

「駒の森」と名付けられたのは、昭和51年だったということですが、その後、昭和60年代にかけて保護者の皆さんで遊歩道を設置したり、運動遊具を設置したりして整備を進め、併

せて、児童と保護者で植樹も行ったりしてきました。平成の時代に入ってからこうした活動は続き、様々な種類の樹木を植樹するなど整備を進め、平成14年には、保護者や地域の方により「駒の森を育む会」が結成され、今日まで計画的、継続的に「駒の森」を大切に育ててきたということでした。小学校児童の保護者をはじめ地域の皆さん、育む会を応援する四街道市の「森の応援団」、本市の「里山を育てる会」等々、関係する皆様方のご努力で今後もこの「駒の森」が適切に維持管理され、いつまでも地域の誇りとして子どもたちが次世代につなげていける事を願っています。

○7月31日 令和元年度 折り鶴平和使節団・千羽鶴出発式について

今年も、市内の中学校から各1名の代表生徒が「折り鶴平和使節団」としてこの事業に参加することになり、その際に訪問先の広島原爆記念公園に収める千羽鶴の出発式がありました。平和啓発推進協議会のメンバーが主体となって、生徒たちの事前指導を行ってから、目的地の広島に向かうのですが、各校から選ばれた生徒にとっては、授業で学習している内容ではあっても、実際に広島に行き、原爆資料館なども見学したり、記念式典に参加したりすることは、大変貴重な経験になるものと思います。実は、私の父は、師範学校時代、兵隊として広島に駐屯していた時に原爆が投下され、その直後に被爆者の支援にあたったことから、広島の状態については、父から詳しく聞かされていました。父も支援の最中に、残留放射能による被害と思われませんが、作業途中で倒れ、病院に運ばれています。直接的ではないにしろ、いわゆる被爆者の一人です。「折り鶴平和使節団」の生徒たちには、広島訪問を通じ、平和とは何か、平和な社会に向けて自分たちは何をしたらいいのか、しっかり学んできてほしいと願っています。

○7月31日 第35回 全国小学生陸上競技交流大会 出場激励会について

桜田小学校6年の 椿 真拓 君が、陸上競技の全国大会に参加することになり、その出場激励会が行われました。椿君は、「コンバインドB」というカテゴリーに参加しています。「コンバインドB」とは、走幅跳と、ジャベリックボールというボールに羽が付いたようなものを、やり投げのようにして投げるジャベリックボール投の2種目の総合で競う競技です。椿君は、県大会で優勝し、全国大会に参加することになったわけです。この日は、椿君を激励し、全国大会での活躍を祈りました。

実は、今日の時点ですでに競技は終了し、結果がわかっております。競技結果ですが、椿君、見事に全国大会優勝を果たしました。今日の午後、その報告会を予定しています。本当に凄いことだと思います。記録ですが、走幅跳が4メートル96で4番目の記録、ジャベリックボー

ル投が57メートル49で3番目の記録でしたが、両種目の記録の得点を合計した総合得点により、男子コンバインドBで1位という結果でした。

○8月2日 第69次 印旛地区教育研究集会について

夏休み中に行われる恒例の印旛地区の教職員研修会の一つが、成田国際文化会館で開催される教育講演会です。私は、開催地区の教育委員会ということで、部長と教育指導課長とともに招かれ、参加してまいりました。この日の講演は、スポーツジャーナリストの二宮 清純さんが講師で、およそ90分間の講演をされました。いつも子どもの指導に追われている教職員にとって、夏休みは貴重な自分の時間ですが、その時間に自ら学びを深める活動を行えることは、とても有意義なことです。この講演会は、毎年、著名な方をお呼びして、良い刺激をいただいている研修の一つです。今後も継続できることを願っています。

○8月2日 令和元年度 第1回 成田市青少年問題協議会会議について

条例に基づき協議会が設置されているわけですが、今年度第1回目の会議が開催され、出席いたしました。会議では、青少年相談員連絡協議会の副会長である 佐藤 友紀 氏を、本協議会の副会長に選任した後、成田警察署生活安全課長から成田市の青少年非行の現状と課題について、交通防犯課長から青少年を対象とした防犯教育の効果と問題点について、子育て支援課長から児童虐待の現状と取り組みについて、そして、教育指導課長から外国籍の子どもたちの居場所づくりについて、それぞれ発表し、協議を行いました。その中で、私が特に気になったのは、児童虐待の件数が、毎年、増加傾向にあることでした。地区によっては減少しているところもありますが、市全体としてみると増加している現状にあります。野田市の事件も影響し、通報件数も増えているのかもしれませんが、皆が意識して子どもの状況を見ていくことがとても大事なことだと思いますので、今後も、決して虐待は許されない行為だと認識してもらえよう、教育委員会としても、学校や保護者に向けて引き続き啓発していかねばならないと思いました。

○8月3日 第6回 千葉県スポーツ推進委員交流大会について

この大会は公式な大会ではなく、スポーツ推進委員の自主的な運営による大会でした。実は、招かれて現場に行って初めて知ったことです。私自身は、各地区持ち回りで行っている大会なのかなという認識でいたのですが、そうではなかったということです。スポーツ関係の事務局が市長部局になったことで、一つひとつのスポーツ関係団体の主催する事業内容が、私の方に

はあまり詳しく伝わらなくなった感もありますが、参加してみればそれなりに得ることも多くあります。この日も、スポーツ推進委員の皆さんの情熱や意欲を感じさせてもらいました。

○8月3日 第10回 成田の地域遺産写真展・世界遺産展・ユネスコ活動展について

ユネスコ協会の活動を広く市民の皆様にご覧いただき、理解をしてもらうことで、教育、科学、文化の協力と交流を通じて、平和と福祉の促進に役立てていく。そのような大きな目的を持った活動展です。地域遺産写真展は、始めてから10年が経過し、今回で一区切りをつけるということでしたので、最後の写真展になりました。地域にこんな場所があったのかと、改めて自分たちの地域を見直す良い機会を提供されましたし、ユネスコスクールとして活動している公津の杜小、玉造中、下総高校のそれぞれの取り組みも展示されていました。今後も地道な活動を通して、平和と福祉に貢献されますよう期待しております。

○8月3日 第12回 成田スカイシリーズ イースタン・リーグ公式戦について

プロ野球、千葉ロッテマリーンズ 対 楽天イーグルスの二軍公式戦が大栄のナスパ・スタジアムで開催され、私も招待を受けましたので開会セレモニーに出席した後、試合を観戦してまいりました。二軍戦とはいえ、一軍入りを目指して懸命にプレイするプロ選手の姿は、やはり素晴らしいものがあります。暑い中スタンドいっぱいの大勢の観客も入り、盛り上がっていました。高校卒業後、ドラフトで上位指名を受けて入団したものの、未だ一軍入りを果たせていない将来を期待される選手には、特に大きな声援が飛び、ファンの熱い思いが感じられました。

○8月6日 高齢者叙勲伝達について

小御門小学校の校長を最後に定年退職された、長濱 卓三 先生に瑞宝双光章が授与されたので、伝達に行ってまいりました。長濱先生は、私が下総中学校に入学した当時、体育の先生でいらっやと記憶しておりますが、1年後、隣町の神崎中学校に転任されました。体育の先生だったということもあるのですが、毅然としたお姿が印象的でした。勲章は奥様とご一緒の席でお渡ししました。奥様は、先生は耳が遠くなったとおっしゃっておられましたが、大変お元気そうで、そんな状況は一切感じられませんでした。これからもお元気でお過ごしされますことをお祈りしたいと思います。

○8月7日 台湾・桃園市 行政訪問団 表敬訪問について

台湾、桃園市の 鄭 文燦 市長はじめ14名の桃園市関係の皆さんが来日され、成田市を表敬

訪問してくださいました。私は、一昨年、成田国際高校の吹奏楽部の生徒とともに桃園市を訪問させていただきましたが、その際、歓迎夕食会の席上で、鄭市長は、体調がすぐれなかったにもかかわらず、無理を押して、ご出席いただき、温かい言葉をかけてくださいました。私のことを覚えていらっしゃるかなと思っておりましたが、この日も、顔を合わせるなり、すぐに思い出していただけたようで、にこやかに話しかけてくださいました。日本での滞在を楽しんでいただけるよう、私からもご挨拶させていただきました。

○8月17日 令和元年度 印旛郡市社会教育振興大会について

今年は、印西市の文化ホールで開催されました。教育委員の皆様3名がご出席くださいましたので、私からは特にご報告の必要はないかと思いますが、今回は、本市からユネスコ協会の役員の方4名を含む6名の方が、印旛郡市社会教育委員会連絡協議会から表彰をお受けになりました。

○8月19日 栄養士との意見交換会について

毎学期末に開催している、恒例の栄養士さんとの意見交換会でした。新たに本市に配置された栄養士さんとも意見交換ができましたし、各調理場で抱える問題も把握することができました。この会議には、部長と教育指導課長も参加していますが、二人とも初めての参加で、歯に衣着せぬ言い方の栄養士さんの意見に驚いたかもしれませんが、そもそも栄養士さん方は基本的に学校では一人職であり、専門職です。特に、給食センターに配置された皆さんは、市職員の中に栄養士だけが県職という、ちょっとほかの職場とは違った環境にいます。それだけに、市職員とのコミュニケーション不足が課題となっており、疎外感を持つ職員もいるようです。こうした意見交換会は、それぞれの皆さんが持っている本音の気持ちを知る良い機会ですし、誰もが安心して自分の持ち味を出して頑張れる職場環境を作っていくことは大切なことだと思っていますので、今後も継続して実施していきたいと思っています。

なお、この意見交換会で出された意見は、それぞれ関係する皆さんに伝え、円滑な給食事業を実施できるよう努めていきたいと思っています。

以上、報告とさせていただきます。

《教育長報告に対する意見・質疑》

佐藤委員：8月17日、印旛郡市社会教育振興大会に初めて出席させていただきました。その

中で、白井市の事例発表において、クラウドファンディングによるプラネタリウムの挑戦というものがあり、天体の写真を撮れる望遠鏡を購入したいということで、賛同者を募り、少しずつ資金を集め、事業を行うといったものでした。いろいろな課題があるとは思いますが、ただ用意されたものを受け入れるだけではなくて、自分たちが少しずつ資金を出すことで、積極的に参加できるのではないかと思いますので、一つの方法かなと思いました。また、記念講演として、元オリンピック選手 山崎一彦さんの講演がありました。高校生からの「どうすれば早く走れるようになりますか」という質問に対して、親身に考えながら答えられていたことに、とても好感が持てました。いわゆる王道というものはなく、一つひとつ、その場その場で考えて、やっていかなければならないのが競技の世界なのかなと思いました。また、小学生や中学生では、力のある子を褒めるあまり、そうでない子への目配り気配りが疎かになる傾向があるので、気を付けなければならないというお話もありましたが、なるほど、そのとおりでなと思いました。

小川委員：8月17日の印旛郡市社会教育振興大会に参加しました。山崎さんからは、講演の最初に参加者に対し、オリンピックの陸上競技の4×100メートルリレーでメダルを取った選手たちは、中学生のころ全国大会で入賞していたと思いますかという質問がありました。ほとんどの人は、「リレーメンバーのうち3、4人は入賞していたと思う方は手を挙げてください。」と言われたところで手を挙げていました。実際のところは、「ゼロ人」が正解でして、中学生のころは、全国大会に出場した選手はいましたが、誰も入賞していなかったとのことでした。参加者は、みんなびっくりしました。中学生のときに全国大会で入賞しなくても、オリンピックでメダルが取れるのだということを知った人がたくさんいたということです。よく言われることですが、中学生のときに一生懸命に頑張り過ぎて、中学あるいは高校で燃え尽きてしまい、大学や一般で活躍できないという選手も少なくないようです。その点、玉造中の濱谷校長は、後で伸びてくれれば良いという考え方で、選手にあまり無理をさせない指導を昔からしています。私も西中で一緒に仕事をしておりましたが、子どもたちにはあまり無理をさせないで、それで結果も出していましたので、大変優れた指導者であると改めて思いました。

片岡委員：私も、印旛郡市社会教育振興大会に参加しましたので、少し感想を述べたいと思い

ます。オリンピックである山崎先生の講演ですが、現役の高校生たちも講演を聞きに来ていまして、「今、上手になりたい。」「どういうふうになれば上達するのか。」といった質問をしていました。やはり、オリンピックの方から、直接、話を聞きたいのだろうなと感じました。とても貴重な講演であったと思いますし、今後、他の競技についても、現場を経験された優れた指導者の方のお話を子どもたちが聞く機会があると、子どもたちは良い影響を受けることができると感じました。今回、初めて参加したのですが、今後も都合をつけて参加したいと思いました。

5. 議 事

(1) 報告事項

報告第1号 「令和元年度第1回成田市学区審議会報告について」

竹尾学務課長：

報告第1号 令和元年度第1回成田市学区審議会報告についてであります。令和元年8月5日午前10時より、今年度第1回目の学区審議会を開催いたしました。本審議会では、議案2件を審議し、報告事項1件について報告させていただきました。

まず、議案第1号 成田市学区審議会設置条例第4条第2項による会長の選任についてであります。委員の委嘱替え並びに会長の退任に伴い、新たに会長を選任いたしました。委員の互選により、江邨 一男 委員を会長として選任いたしました。

次に、議案第2号 成田市学区審議会設置条例第4条第4項による会長の職務を代理する委員の指定についてであります。会長から、濱田 静 委員を職務代理者に指定いたしました。

続いて、報告第1号 指定学校変更・区域外就学の状況についてであります。平成30年度中の指定学校変更・区域外就学の状況並びに令和元年度新入学児童生徒の指定学校変更の状況について報告いたしました。平成30年度中に指定学校変更を行った児童生徒数の合計は235人、平成31年度新入生について、年度初めに指定学校変更を行った児童生徒の合計人数は132人となっております。

また、住民基本台帳と学齢簿を元に、小学校については現在から令和7年度まで、中学校については現在から令和13年度までの児童生徒数の推移を報告し、将来的な学区や学校規模の在り方について、学区審議会委員から意見をいただきました。

特に、今後、豊住小学校において令和5年度にはすべての学級が複式学級になるという見込みがあり、委員の皆様からは、小規模校に関する内容を中心に、資料に記載のありますとおり質問や意見が出されました。

最後に、その他ということで、並木町開発計画60区画、計画人口240人、宗吾2丁目計画100戸・400人計画の開発、計画について情報提供をしたところです。

以上で、令和元年度第1回学区審議会の報告を終わります。

《報告第1号に対する質疑》

小川委員：豊住小学校が令和5年度にはすべての学級が複式学級になるという見込みだということですが、先ほど教育長報告にもありましたが、豊住地区で小学生のいる保護者の中には、それでは困るな、学校を統合してほしいなど考えている方もいるようですね。実際のところ、そのような意見が届いていますか。

竹尾学務課長：区長さんを通して、あるいは校長先生を通して、そのようなご意見をいただいたというようなことはありませんが、これまでに、子どもを小規模校に進学させるのは、学校行事を行うにあたって不安を感じるといったご意見は匿名でいただいておりますので、今後、改めて、地域の保護者の皆様へアンケートを行う等して、今後の在り方について考えていきたいと思っております。一方で、やはり、中学校を統合する際に、小学校については残してほしいという保護者の皆様からの強い要望がありましたので、慎重に対応してまいりたいと考えております。

小川委員：ですから、これは本当に難しい内容であると思います。例えば、他市のことですが、市の方から、事前の説明をせずに中学校の統合の話を地域にしたところ、猛反発にあったということがありますので、統合に関しては、慎重に、そして、事前に地域の方々と十分に話し合いながら対応していただきたいと思います。

あと、これは質問ですが、来年度、公津の杜中学校は1学級増になる見込みのよう

ですが、教室は足りるのでしょうか。

篠塚学校施設課長：来年度、学級増となった場合の教室につきましては、現在、少人数学習や多目的に使用している部屋が何部屋かございますので、学校と協議しながら、そちらの部屋で対応することを考えております。

小川委員：先ほど、情報提供ということで、宗吾2丁目に100戸の計画があるとのことでしたが、そうすると、将来的に生徒も増えていきますので、早め早めの対応をお願いしたいと思います。

竹尾学務課長：宗吾2丁目につきましては、学区は、西中学校区、公津小学校区となります。100戸の開発が計画されている地区ですので、地区の中で、学区の学校に近い場所と遠い場所がある等、課題がありますので、学区については、今後、慎重に審議していきたいと考えております。

小川委員：宗吾については、西中学校区になるはずですが、開発地区に新たに住む方からは、すぐ近くに公津の杜中学校があるので、公津の杜中学校に通いたいという希望が出てくるものと考えられます。過去にも、西中学校の近くに建てた集合住宅を購入する方に対して、学区は中台中学校であるのに、西中学校に通えるという説明が販売する側からあったようで、トラブルが生じたというようなこともありましたので、早めの対応が必要だと思えます。

6. 教育長閉会宣言